

Ⅲ－５．緊急物資の確保

これまでの地震・津波の経験から、備蓄品は『最低３日間、推奨１週間』を前提にした整備が必要です。

備蓄品は、地震・津波直後にライフラインが途絶し、物品の補給が受けられない状況下で、業務の復旧・継続や救助活動を実施するために必要な物を用意しておかなければなりません。

備蓄は、品目や量のほかに保管場所や保管責任部署・鍵の管理者についても考慮すること、そして備蓄品については、事業所に長期に留まらざるを得ない運転要員や災害対策要員の人数を考えて備蓄することが重要です。

１ 備蓄品及び保管と管理

（１）備蓄品の種類と数量

備蓄品の種類と数量については、日数と人数を考慮して選定する必要があります。特に、業務の復旧・継続や救助活動に必要な資機材を盛り込むことも必要でしょう。

（２）保管場所

保管場所は、地震・津波による倒壊や冠水の被害に遭わない場所で地震・津波の際に取り出しやすい場所を選定します。津波による事業所の浸水深を考慮して、建物２階以上とすることも必要でしょう。

また、１箇所だけでなく、複数箇所に分散して保管することも考えます。保管場所やそこまでのルートが地震・津波でアクセスが不可能にならないかを確認することも必要です。

そのため、川崎市津波ハザードマップ（※）を参照の上、事業所の津波による浸水深を把握しておく必要があります。

（※）川崎市津波ハザードマップ

<https://www.city.kawasaki.jp/170/page/0000046474.html>

（３）点検

品質保持期限のある食料品等の点検は、１年毎定期的に行います。点検部署は、点検するもののリストを作成し、そのリストをもとに点検を行います。点検部署は総務部門や保安部門が一般的です。

品質保持期限が切れる前に、例えば、防災訓練時に賞味する等、別の用途に利用する等の工夫も必要でしょう。

(4) 備蓄品 (例)

(想定：100名の場合、必要性が高いと思われるものから順に記載)

	品 目	必 要 数	参考備蓄品数量 【100名の場合】
食 料	水 (※)	1人×3日×3日	900日
	主食 (乾パン、ご飯等)	1人×1日3食×3日	900食
	缶切り	部門毎に1つ	
	携帯主食 (乾パン、ご飯等)	1人×1日1食×3日 【個人用袋を用意】	300食
	副食 (缶詰等)	1人×1日1食×3日	300食
	調理具セット	部門毎に1セット	
	スプーンセット	1人×1セット 【個人用袋を用意】	100セット
	コップ (プラスチック)	1人×2個 【個人用袋を用意】	200個
	ポリタンク	部門毎に2つ	
	個人用持出袋	1人×1個	100個
	皿 (プラスチック)	1人×2枚 【個人用袋を用意】	200枚
脱 出 用 ・ 救 助 用 資 材	消火器	消防法に定める規定数	
	懐中電灯	5人で1本	20本
	工具セット	ペンチ、バール、ノコギリ、ハンマー、ドライバー、マグライト、万能はさみ、ナイフ等	5セット
	粘着テープ		10個
	ヘルメット	1人×1個 【個人用袋を用意】	100個
	ジャッキ	1棟に1つ	
	ロープ (ナイロン製)	1棟に1つ	
	折り畳み担架	1棟に1つ	
	ハンマー (大)	1棟に1つ	
	自転車	1棟に1つ	
	シャベル	フロア毎	
	滑り止め付き軍手	5人で1組	20組
	乾電池 (予備)		懐中電灯等に使用
情 報 伝 達	従業員名簿	部門毎	
	地図 (避難所)	【帰宅地域全ての地図】	
	ラジオ (AM、FM、バッテリー式)	部門毎	
	携帯電話/テレビ	部門毎	
	トランジスタメガホン	部門毎	

滞在・宿泊	ゴミ用ビニール袋（大）		100 袋
	仮設トイレ	10 人に 1 個	10 個
	トイレトーパー	人数に応じて	
	大型毛布	1 人×1 枚 【 防寒対策 】	100 枚
	防水シート	人数に応じて 【 水濡・ガラス飛散対策 】	
	LED ランタン（電池式）	10 人で 1 個	10 個
医療品	救急セット	止血帯、洗浄綿、湿布、 バンド絆創膏、三角巾 包帯、ガーゼ、消毒液、副 木、綿棒、体温計 トゲヌキ、ピンセット等	
	鎮痛剤、化膿止め、風邪薬 胃薬、下痢止め、	人数に応じて 【産業医に相談する】	
	ティッシュ／ウェットティッ シュ	10 人に 1 箱	10 箱
	防塵マスク	1 人×1 個 【個人用袋を用意】	100 個
	液体石けん／水不要石けん	部門毎×2 本	

※ 水を入れる容器が無い時は、空のペットボトルやポリタンクを利用する他、ビニールのゴミ袋を二重にして入れる方法も有効との報告があります。

《チェックポイント》

・備蓄品

- 1. 事業所に留まる人数と日数を事前に計画して種類と数量を決めているか
- 2. 備蓄品の種類と数量については、リストを作成して照合管理しているか
- 3. 食料は、長期間保存出来るものを備蓄しているか
- 4. 食料の品質保持期限は、定期的に確認し常に利用出来るようにしているか
- 5. 水を入れる容器は十分に確保しているか
- 6. 緊急時の脱出用・救助用資材を（雨や夜間等を考慮して）確保しているか
- 7. 情報収集手段としての携帯テレビやラジオ等を使える状態で管理し準備しているか
- 8. 復旧に必要な資機材も準備しているか
- 9. 備蓄の中には医薬品を確保しているか

・備蓄品の保管と管理

- 10. 保管場所とそこへのアクセスは地震や津波の影響を考えた場所としているか
- 11. 保管場所の管理責任部署と管理者が明確になっているか
- 12. 保管場所の鍵の管理者を明確にし、また、管理者が不在時でも取出し可能になっているか
- 13. 緊急物資（特に、非常用食料、水、毛布等）の、分散備蓄を行っているか
- 14. 品質保持期限のある食料品等の点検は、1年毎定期的に行っているか